

なんぶ

＜発行＞
 南部合唱団
 連絡先：〒214-0022
 川崎市多摩区堰
 1-22-1-416
 TEL:044-833-6220

うたごえの組織的地盤を 大きく広げる活動を

団長 大井 かつ江

南部合唱団は、2月11日〜12日に団総会を行いました。今年は団創立60周年の年です。まずは6月2日の60周年記念音楽会「平和に生きる権利」を組織的にも音楽的にも成功させたいと思っています。

「羽田増便による低空飛行ルートに反対する区民の会」の皆さんから、「この運動を知らせ励ます歌を」との要望に応え「品川を守るう」を創作しました。会の皆さんに音楽会で一緒に舞台にのっていただき、この運動を伝える一場面も設けたいと思っています。音楽

☆日本のうたごえ全国協議会総会 参加しました

南部のうたごえ協議会

会長 加山 忠

石川祭典の総括として、各地域の発言 岐阜のバイタリティーあふれる元気なお母さんやうた新を1人で30部以上増やした男性の話や沖縄の協議会会長の1週間前の惜敗した選挙の話などいろいろな発言がありました。以前は歌っての発言が多かったと思いますが、最近の傾向は写真を使った発言が

多くなってきたと感じました。今回私は発言しませんでした、発言する人が多く17人もの人が文書発言になってしまいました。その後70周年レセプションにも参加しましたが、狭い会場に200人あまりの人達が集まり、各界の人の祝辞や合同合唱や寺嶋陸也さんのピアノの即興演奏など盛り沢山でした。料理も美味しく頂きました。翌日の総会で南部のうたごえ協議会が優秀団体賞に表彰されたことは私にとって一番嬉しく思いました。 ○2月10日11日

会終了後は、うたごえ70周年記念日本のうたごえ祭典へむけて取り組みます。メイン会場の川崎市とろろキアリーナは、6500名の会場ですが、舞台の設定を考えると5000名、全国から2000名の参加を考えると東京の組織できる数が3000名では思い切った組織ができないのではなにか、ということ。二つの音楽会、のべ万人の音楽会を取り組むことになりました。歌って参加を基本に、南部地域でも多くの人とともに祭典を成功させたいと思います。そのためにはうたごえ新聞読者の拡大、うたごえを旺盛に開催すること。祭典が終わるまでにうたごえの組織的地盤を大きく広げる活動を展開してゆきたいと思えます。その中で新しい仲間を迎え、合唱団を更に大きくし、65周年、70周年へと続く南部合唱団をつくってゆきましょう。皆さんのご協力をよろしくお願い致します。



☆日本のうたごえ全国協議会総会

とても有意義で

幸せな2日間

アルト 下川 未代

2月10日(土)、11日(日)四谷主婦会館プラザエフで行われた日本の歌声全国協議会総会に参加させて頂きました。

前日に、「青年のうたごえ」の創作曲の編集会議があった為、青年部の代表として参加する事が出来ました。初参加でしたが、普段うた新や季刊日うたで読んでいる記事を実際に体験する事が出来ました。

発言の中で特に印象に残ったのは、園田鉄美さんの「一人から一人へ」という自身の曲を使った宣伝行動。始めは立ち止まって話を聞いてくれる人も少なかったけれど、続けていくうちに段々と関心を持ち、話を聞き署名をしてくれ、今では各メディアにも紹介され、数百万人も人が核兵

器廃絶の署名をしてくれている。諦めずに続けていく事が大事だという事を痛感させられました。

また、「東海青年のうたごえ」では、前年度の長野祭典での満蒙開拓団の跡地を巡る旅など、その他にも色々な場所を訪れているという事を知りました。全国でうたごえの運動が広がっているという事に勇気づけられ励まされました。

最後には、「東京青年のうたごえ」での創作曲「つなぐ、Kokoro no」をみんなで歌う事ができ、とても有意義で幸せな2日間を過ごす事が出来ました。
○2月10日、11日○四谷・主婦会館プラザエフ

表彰状

優秀団体賞

南部のうたごえ協議会 殿

貴団体は二〇一七年度の活動に於いて、運動を大きく広げ全国の模範となりました。よってここに表彰します。

二〇一八年二月一日

日本のうたごえ全国協議会

表彰状

うたごえ新聞読者拡大賞

南部合唱団 殿

貴団体は今年度、うたごえ新聞読者拡大に大きく貢献されました。よってここに表彰します。

二〇一八年二月一日

うたごえ新聞社

日本のうたごえ全国協議会

表彰状

うたごえ新聞読者拡大賞

加山 明美 殿

あなたは今年度、うたごえ新聞読者拡大に大きく貢献されました。よってここに表彰します。

二〇一八年二月一日

うたごえ新聞社

日本のうたごえ全国協議会

表彰状

うたごえ新聞機関紙誌賞

南部合唱団 「なんぶ」 殿

貴団体機関紙は、定期発行、集団企画・編集され、団体の活動と運動づくりがよく伝わる機関紙誌として発行されました。その功績と努力をここに表彰します。

二〇一八年二月一日

うたごえ新聞社

日本のうたごえ全国協議会

全国協議会では、南部合唱団は毎年表彰状を頂いています。特に今年度は合唱団として3つ頂きました。そして、南部うたごえ協議会が「優秀団体賞」を受賞。
合唱団として、常にうた新拡大に邁進したこと、南う協として歌声祭典を開催したことを評価頂いたものと思います。そして我が機関紙なんぶは今年も機関紙誌賞を頂きました。連続21回目の受賞となります。(機関紙部)

☆日比谷野音 原発ゼロ3・4全国集会
から 板橋 坂下ワン・ツー後援会
「九条」を届けに北部へ！
テナー 小島 啓介

東う協からの演奏参加、
伴奏依頼を受けて、日比
谷野音で開かれた「原発
ゼロ3・4全国集会」の
開幕合同演奏に参加した。
南部合唱団からは5名。
メーデー歌集を活用して
「いのちをうたおう」を
加山明美さんが歌唱指導
このほか、「私の子ども
たちへ」[HumanRights]
などを東京の仲間達で演
奏した。

青空のもと、爽やかな開
幕演奏になったと思う。
南部合唱団はこの後、
車に飛び乗って堀江さん
の地元、板橋の蓮根へ移
動し「坂根ワン・ツー後
援会」の「春のつどい」
へ転戦。ここは合唱団
「北星」の地域ですが、



「憲法九条」の演奏が聴
きたいとの要望で、敢え
て南部合唱団に演奏依頼
が来ました。「憲法九条」
「いのちの歌」「ノーパ
サラン」などを演奏し、
大変喜ばれました。ちょっ
と遠かったけど、お声が

☆めぐろ区民集会 2018
笑いなながら「力」もらった
バス 首藤 甲二

けいただければまた演奏
に行きたいです。
○3月4日○日比谷野音
板橋・蓮根地域センター

めぐろ区民集会20
18が行われ、オーブ
ニングで南部合唱団が
「町」「平和に生きる
権利」「日本国憲法9
条」「ノーパサラン」
を演奏しました。集会
には、約150名の東
京土建目黒支部の組合
員と区民の皆さんが参
加。

集会のメイン公演は、
腹話術師のしろたにま
もるさんと「ゴローちゃ
ん」の腹話術ショー。
「お二人」は、軽妙に
安倍総理のおかしな言
動や欧州などを見てき
て、福祉に対する考え
方の日本の現状との大
きな違いや、しろたに
さんの出身地・長崎の
被爆された方たちとの
交流や、被爆後の目に



した体験などから、核
兵器の廃絶と平和の尊
さを、伝えていただき
ました。参加された方々
が笑いなながら、そして
力づけていただくこと
ができた、素晴らしい
集会でした。
○2月21日○目黒区民
センターホール

☆東京土建目黒支部結成60周年記念旗開き
諸先輩の活動を受け継ぎ、
命と暮らしを守る共闘を
前進させると決意

東京土建目黒支部 書記 堀田祐子

佐藤忍目黒支部委員長
より、諸先輩の活動をう
けつぎ、建設労働者の要
求実現にむけた闘い、教
訓をいかして今日に至つ
た。昨年末には目黒区公
契約条例が制定、組織拡
大では、8年ぶりの実増
を勝ち取れた感謝を述べ
るとともに「改憲発議が
懸念させる中、「平和だ
からこそ家がたつ」と憲
法九条を守る市民や立憲
主義勢力とともに国民の
命と暮らしを守る共闘を
前進させる決意を述べま
した。
乾杯後は祝賀会として、
ランチをいただきながら、
来賓の祝辞や首藤さん率
いる南部合唱団の「平和
に生きる権利」「花をお
くろう」、声楽家の鶴岡
恵さんのソロで「早春賦」
などのうたを楽しみまし
た。
○2月18日○目黒・ホテ
ル雅叙園東京



3. 4原発ゼロの未来へ、福島とともに全国大集会

各地から3000人



東日本大震災

3月11日で東日本大震災、東京電力福島第1原発事故から7年を迎えました。全国への避難者は今だ7万3349人です。福島県内13市町村の復興進捗アンケートでは、「始まったばかり」が双葉町。「道半ば」が大熊、楢葉、浪江、川俣町、川内、葛尾村。「7割方」が飯館村、広野町、南相馬、田村、いわき市。「おおむね終了」は0。富岡町は「復興には帰還困難地域の再生が不可欠。選択なし」と回答。

原発ゼロ基本法案
日比谷野音で開催された「3・4全国集会」では「原発ゼロ・自然エネルギー推進連盟(原自連)」会長、前城南信用金庫理事長が「原発ゼロ・自然エネルギー基本法案」を公表しました。

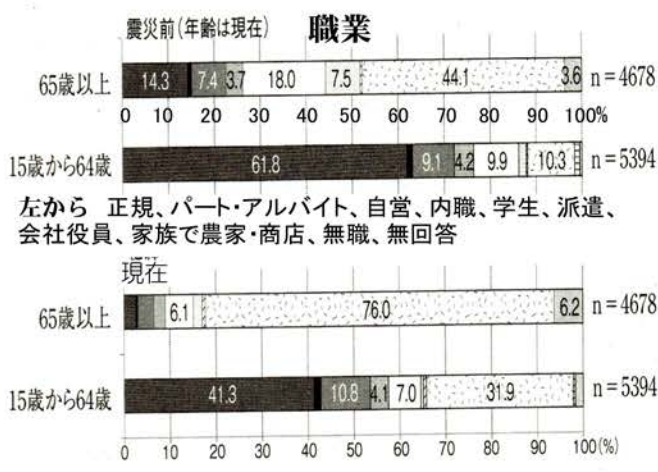
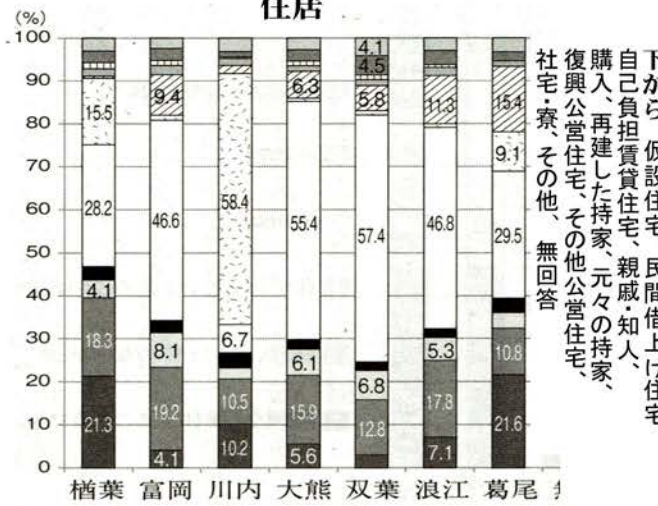
参加した全労連、いわき市民訴訟団、首都圏原発連合、さよなら原発1000万人アクションなど、全面的に賛成し、実現に力を尽くそうと、決意を固めました。

基本法案共同提出
日本共産党と立憲民主党は、国会内で会談し、原自連が公表したものと一致する内容を確認し、「原発廃止・エネルギー転換を実現するための改革基本法案(原発ゼロ法案)」を衆院に共同提出することにしました。

原発ゼロ実現に向け、国会が大きく一歩を踏み出した時、私たちが、全国的な運動に全力をあげましょう。

原発ゼロ基本法案
日比谷野音で開催された「3・4全国集会」では「原発ゼロ・自然エネルギー推進連盟(原自連)」会長、前城南信用金庫理事長が「原発ゼロ・自然エネルギー基本法案」を公表しました。

参加した全労連、いわき市民訴訟団、首都圏原発連合、さよなら原発1000万人アクションなど、全面的に賛成し、実現に力を尽くそうと、決意を固めました。



第二回双葉郡住民実態調査中間報告
福島大学うつくしまふくしま未来支援センターによる

双葉郡は八町村(広野町・楢葉町・富岡町・川内村・大熊町・双葉町・浪江町・葛尾村)からなります。調査は8万人、2万8184世帯対象に行われ、回収率48.2%でした。

第一回の調査は、震災半年目に行われ、半年間で、5回以上避難場所を変えた人が4割いたと報告されました。私の親類も親戚の家を入れると、3回以上転々としています。

7年たった現在の住居状況は、復興のつどいが開かれる楢葉町が仮設住宅に21.3%、民間借上げ住宅に18.3%で、現在も39.6%が仮住まい生活をしている事が解りました。

家が購入、再建した人が楢葉町では28.2%。富岡町、大熊町、双葉町、浪江町など、帰還困難地域を多く含む所で50%前後。生活状況の大変さが伝わり

持家に58.4%が住んでいるとの回答ですが、超後期高齢者だけの村になりました。

職業で問題なのは、15歳から64歳の生産年齢の人が、現在31.9%も無職であるという事です。震災前から3倍になりました。復興には、公的な援助が欠かせない事が解ります。政府と東電は最後まで、住民本位の復興を、最後まで責任をとれ!

私の故郷の川内村は、